

福井県医師会

だより

第624号 平成25年(2013)6月



ニリンソウと猿

鯖江市 今野 利男

表紙写真説明：ニリンソウと猿

鯖江市 今野 利男

上高地から歩くこと2時間で徳沢に着きます。ここにはニリンソウの大群落があり、5月末から6月にかけて白い花をつぎつぎに咲かせます。この花を目当てにやってくる人もたくさんいます。この日はたまたま猿の群れがやってきていてニリンソウの花を食べていました。

醫 縫 録

ストップ脳卒中

福井大学医学部脳脊髄神経外科学教授 菊 田 健一郎



私は4年前福井大学脳脊髄神経外科教授に着任すると、第二内科前教授 栗山勝先生から日本脳卒中協会福井県支部長をご指名賜りました。また同時に福井県脳卒中連携協議会の会長を仰せつかり、この4年間は脳外科医と脳卒中内科医の二足のわらじを履いて、県の脳卒中診療に取り組んで参りました。中でも脳卒中連携協議会は、福井県下の主な急性期病院、回復期病院の医師、看護師、理学療法士、MSW(医療ソーシャルワーカー)の皆様と脳卒中連携パスの統一や運用を話し合う会ですが、年を追うごとに参加者が増え熱気が増えています。この会に参加すると福井県が一体となって脳卒中に取り組んでおり、自分もその一員なのだということが実感され、とても頼もしく感じます。この場をお借りして各病院の皆様へ深く感謝申し上げます。

ご存知の通り、脳卒中の死亡率は死亡原因の第4位まで低下しました(昨年までは第3位)。しかし寝たきりの原因として依然として第一位です。福井県内では、年に1,000人が脳卒中で亡くなり(死亡者の11.8%)、これは減少していますが、脳卒中治療受診者は1日2,500人と増加傾向です。しかも死亡率も受診率も全国平均と比べると高く、依然として福井県の脳卒中は減少していません。今後、超高齢化社会を迎えるにあたり、福井県民の健康寿命を延ばし「ピンピンコロリ」を達成するために、「ストップ脳卒中」は最重要課題です。

脳卒中はいったん生じると高い確率で後遺症が残るため、一次予防といって初発の脳梗塞を起こさせないことがまず必要です。そのために最も大切なことは生活習慣の指導です。日本脳卒中協会では①高血圧、②糖尿病、③不整脈、④禁煙、⑤適度なアルコール、⑥コレステロール、⑦食事内容、⑧運動、⑨肥満、に気をつけることと、⑩脳卒中が起きたらすぐに病院に行くよう指導する、脳卒中予防十か条を作成しています。十か条の啓発のため福井マラソンで「ス

トップNo卒中」のTシャツを着て走ったり、年2回脳卒中県民講座を開いて県民の皆様へアピールしたりしています。特にタバコと高血圧は最重要因子で、私は65歳になって高血圧で喫煙している患者さんには、「すぐに禁煙し高血圧の薬を飲みなさい。でないと10年後に脳卒中で寝たきりになりますよ」と半ば脅しに近い形で指導しています。しかし、いったん脳卒中になってしまった患者さんは、5年で50%が再発し、その度ごとに後遺症が積み重なっていきます。これらの方には、生活習慣だけでなく、強力な薬物治療と定期的な服薬指導が必要となります。

外来をしておりますと、福井の高齢者の方とはとにかく「薬に頼りたくない」「薬をたくさん飲むと副作用が出る」などとおっしゃいます。しかし「日本人が長寿なのはこんなに簡単に、いい薬が、安く手に入るからで、諸外国など薬が手に入らず50代で脳卒中や心筋梗塞でどんどん亡くなっていく国もあるのだよ」と日本がいかに恵まれているか説明しています。このような日常診療の主役は何をおいても県医師会の先生方です。福井県民を寝たきりにさせないよう、是非とも強力なご指導、脳卒中診療へのご協力をお願い申し上げます。

最後に、放置しておく危険な未破裂脳動脈瘤、頸動脈狭窄症、脳動静脈奇形などの患者さんでは、脳卒中予防に、時に手術が必要です。しかし予防的手術は、患者さんが全く無症状ですので、合併症のリスクが高く、昔はともかく、これからの時代は一般病院で手術すべきでないと思います。モニタリングシステムが充実し、合併症のリスクの低い大学病院に集約すべきと考えており、今後県医師会の先生におかれましては、何卒よろしくお願い申し上げます。